

「かながわ教育フォーラム横浜大会」の結果概要について

- 1 趣旨 かながわ教育ビジョンの第6章に基づき開催した「かながわ人づくりコラボ2013」及びコラボにおける今後の議論の視点を基に開催した「かながわ教育フォーラム相模原大会」「かながわ教育フォーラム小田原大会」を踏まえ、今後の教育ビジョンの一部改定案の作成に資する教育論議を展開する。
- 2 テーマ これからのかながわの教育・人づくりを考える
～かながわ教育ビジョンの一部改定に向けて～
- 3 日 時 平成26年5月24日(土) 13時15分から14時45分まで(12時45分開場)
- 4 会 場 神奈川県立横浜平沼高等学校 小ホール
- 5 参加者 268名
- 6 結果概要

(1) 基調提案

「かながわ人づくりコラボ2013」及びコラボにおける今後の議論の視点を基に開催した「かながわ教育フォーラム相模原大会」「かながわ教育フォーラム小田原大会」を踏まえ、今後の教育ビジョンの一部改定に関する「提言I(案)」について、かながわ人づくり推進ネットワーク田代副幹事長から説明を行った。



【提言I(案)】

- 1 「いのち輝く」かながわの生涯にわたる自分づくり
〔キーワード〕・自己学習力
・自立した社会人・職業人
・社会への参画と貢献
- 2 新たな教育コミュニティを創造し、活力ある地域づくり
〔キーワード〕・地域の教育的な役割と責任
・活力ある教育コミュニティ
・かながわらしさ
- 3 変化する社会における家庭での子育て・教育を支える仕組みのある社会づくり
〔キーワード〕・少子化が進む社会、社会経済や産業構造の変化
・多様な子育て・家庭教育
・地域との連携による子育て・家庭教育
・家庭から学校への移行
- 4 子どもの個性と能力を大切にし、共に成長する場としての学校づくり
〔キーワード〕・分かる授業、楽しい授業、個別の支援

- ・信頼と期待に応える学校運営、県立高校改革
- ・教育の質の確保・向上を担う指導力のある教職員

5 地域・家庭・学校をつなぐ教育環境づくり

〔キーワード〕・社会の変化に対応した教育

(グローバル化に対応した教育やインクルーシブ教育)

- ・教育ネットワーク
- ・県民の信頼と負託に応える教育行政

(2) 教育論議

テーマ「かながわ教育ビジョンの一部改定に向けて」

基調提案の「提言Ⅰ(案)」を踏まえ、パネリストと会場参加者による論議を行った。

(主な意見)

- ・社会と関わる力が弱い。地域と関わる、社会と関わることについて、早い段階、中・高生からもっと積極的に行うべきである。高校生の段階では、目的意識を持っていることが大切である。
- ・速いスピードで社会が変化している中で、70歳前後まで働くこととなっている現代において、生涯のキャリアについて構築する視点はとても重要である。
- ・子どもたちの学習には、教員が関わることはもちろんだが、企業も将来の人材づくりの視点から関わる必要があると思う。そのためにも学校は、地域と関わることを求められている。
- ・「生涯を通じた人づくり」に係る学習として、地域との連携による子どもへの社会的経験の場を提供する必要がある。
- ・「生涯学習」を改定の一つの重要な柱として、教育ビジョンに掲げた「自分づくり」の視点がまず重要であり、その「自分づくり」を支援する「生涯にわたる人づくり」の場としての「地域・家庭・学校」それぞれが役割を果たすこと、そして、それらをつなぐ教育環境づくりが挙げられる。
- ・「ふれあい教育」における「臨床の知」から継承・発展し、現在の教育ビジョンに掲げている「行動の知」が大切であり、それが正に「かながわらしさ」である。
- ・企業と教育がどう結び付き関連していくか。企業から見ると3つの関わりがある。最初に、採用に関して、企業が学校教育、家庭教育の最大の受益者であること。次に、社会のルールなど決まりを守らせる教育を行うこと。最後に、学校教育、家庭教育のサポートをすることである。
- ・教育ビジョンは、学校経営における基本となっている。
- ・生きる力が求められている。最近の子どもたちの自己肯定感が低いと感じている。学校では、生涯学習の基盤となる自ら学び考え、行動する力を育てることが必要である。
- ・確かな学力を身に付けるためにも、子どもたちが自ら学ぶ視点について、教育ビジョンで触れてもらいたい。
- ・キャリア教育・就労の視点からも専門高校は大切である。
- ・専門教育に特化せず、もっと幅広い教育を行うことが大切である。
- ・学校が充実した教育を行うためには、組織的な運営が必要である。
- ・特別支援学校の高等部に入った生徒が高校に行きたかったと言っている。その生

徒は、高等学校に通えると思われるが、なぜ、高等部に入ったのか聞くと、中学校の時に受けた進路指導によるものだというのであった。

- ・クリエイティブスクールは、東にあるが西にはない。もっと学校を増やしたらどうか。
- ・もっとインクルーシブ教育を進めてもらいたい。
- ・子どもたちがグローバル化に対応していくためには、もちろん、英語教育は必要であるが、郷土や伝統文化に関する学びも必要である。
- ・家庭教育の問題が多様化しており、PTAなど既存の組織だけで解決を図るのは、難しい。企業、地域などの様々な人が関わるのが大切である。そのためにも、身近である地域にある学校を中心に、つながりの場・出会いの場を作ったらどうか。
- ・自分に合う人だけで関わるのではなく、違う考えを持った人を認め合うことが大切ではないか。
- ・「分かる授業、楽しい授業」は、賛成である。楽しいと思うと自然に知識が身に付く。学んだことが実生活において活かされる、実感が持てる授業は良いことだと思う。
- ・「分かる授業」について、塾に行く人と行かない人とでは理解に差があるので、年間を通じてあらかじめ学習計画が分かるように、授業の見通しを示すことは、予習などもできることから必要である。
- ・自己肯定感を養うことが大切である。コミュニケーション能力が必要である。
- ・今の社会では経済的な格差があると思う。奨学金の拡充など、子どもたちの学ぶ環境づくりを進めていくことは大切である。
- ・日本の教員は一生懸命やっていると思う。
- ・福祉人材の育成・確保が課題である。子どもたちが様々な人々と関わっていくことは、教育の面でも福祉の面でも大切である。そこをつなぐネットワークづくりも大切である。
- ・お互いを認め合えること、インクルージョンの考え方は、「かながわらしさ」でもある。
- ・どのような将来を考えるか、自分づくりをどうしていくのか、キャリアデザイン力が大切である。
- ・社会の多様化に対応した教育は必要である。



7 今後の予定

「かながわ教育フォーラム鎌倉大会」

日 時：平成26年7月19日(土) 13時15分から16時30分まで(12時45分開場)

会 場：鎌倉女子大学大船キャンパス(鎌倉市大船6丁目1番3号)

内 容：「提言I(案)」を踏まえたワークショップ、教育論議